

令和 6 年度福島県双葉郡教育復興ビジョン推進協議会事業 取組実施報告 (6/21 時点)**(1) 双葉郡教育復興ビジョンにかかる協議・検討等****1. 双葉郡教育復興ビジョン推進協議会**◇ **第 27 回 (予定)**

会議日：2024 年 6 月 21 日 (金) 13:30～15:30

(11:00～12:10 榎葉町立榎葉小学校訪問)

場所：榎葉町コミュニティーセンター

議事内容：

- ・ 今年度の各取組実施状況について
- ・ 各町村教育委員会の現状と課題
- ・ 福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校活動報告
- ・ 双葉郡教育復興ビジョン推進計画書第四期について

◇ **第 28 回 (予定)**

会議日：2025 年 1 月～2 月開催予定

場所：浪江町

2. 双葉郡地域学校協働本部 会議目的：多様な主体との連携を図り、教育の充実、教育と地域復興の相乗効果を生み出す構成：8 町村地域コーディネーター、8 町村小中およびふたば未来学園高校、8 町村教育委員会を代表する者等会議日：調整中関連事項：

- ① 各町村および本部コーディネーター等による外部講師のコーディネート、外部施設訪問等を実施 (通年 (随時))
- ② 「双葉郡地域学校協働本部事業リーフレット」の発行
目的：双葉郡地域学校協働本部の事業案内および事業報告を郡内各校で共有し、更なる連携した取組の充実に繋げる
内容：双葉郡地域学校協働本部概要紹介、各町村の取組、各校の実践事例等 (予定)
発行部数：800 部 (予定)
配布対象：郡内教職員、関係者等
発行日：2025 年 3 月 (予定)

3. 双葉地区中高連携協議会 (年 1 回実施)目的：双葉郡としての一体感を高め、生徒の主体性・協働性・創造性を育成する構成：県教育庁代表職員、ふたば未来学園高校長および 8 町村立中学校長、8 町村教育長等 (協議会長：武内雅之 富岡中学校長)会議日：2024 年 12 月開催予定

4. 委員会連絡協議会 (年 2 回実施)

目的 : 各委員会・取組間の情報共有、連携

構成 : 各委員会委員長および中高連携協議会長

会議日・場所・議事内容 :

- 第 1 回 2024 年 5 月 1 日 (水) 11:00~12:00 (オンライン開催)
 - 今年度計画・推進体制の確認
 - 各取組の情報共有 (昨年度の成果・課題、今年度の概要等)
- 第 2 回 2025 年 2 月開催予定 (オンライン開催)
 - 各取組の成果・課題等共有
 - 次年度に向けた意見交換
 - 今年度計画・推進体制の確認

(2) 第 11 回双葉郡ふるさと創造学サミット

□ 趣旨

ふるさと創造学の取組を共有し、学びを通じた交流で、地域のつながりをつくる
(スローガン)

～伝えあい、つながって、広がる ふるさとふたばの学び～

町村や校種を越えて学びあい、多様な見方・考え方にふれることで視野を広げる

□ 体制 : (サミット実行委員会)

実行委員長 : 星 輝伸 葛尾小学校長

委員 : 各町村 (小中学校)・高校・特別支援学校・相双教育事務所より 1 名以上
(計 21 名)

会議日 : 6 月 14 日、(※以下予定) 8 月 30 日、11 月 18 日、1 月 22 日 (計 4 回)

□ 実施概要 (予定)

日時 : 2024 年 11 月 30 日 (土) 9:30~未定

場所 : 福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校

※一部セッションを外部向けに録画し、後日配信予定

内容 : 郡内各小中学校・義務教育学校、ふたば未来学園中学校・高等学校、富岡支援学校の児童生徒による、各校の「ふるさと創造学」の取組を共有し合う学び合いセッション

(3) 第 7 回双葉郡小学校絆づくり交流会

□ 趣旨

- ふたばの未来を見据えた、8 町村小学生による町村の垣根を越えた仲間づくり
- 双葉郡内小学校の教職員の交流・情報交換

□ 体制：

①絆づくり実行委員会

実行委員長：石井智明 広野小学校長

委員：各町村（小学校）、特別支援学校より1名以上（計9名）

会議日：5月23日、（※以下予定）6月25日、7月17日、1月（計4回）

②絆づくり中高生実行委員会

委員：ふたば未来学園中学校・高等学校、川内小中学園の中高生（9名）

会議日：（※以下予定）6月22日、7月中（計2回）

□ 実施概要（予定）

日時：2024年7月29日（月）9:30（開会式10:00）～13:00

会場：大熊町立学び舎ゆめの森

対象：双葉郡8町村立小学校児童（全学年対象）

内容：絆づくり交流活動

(4) 第9回双葉郡中高生交流会 FUTABA 1 DAY SUMMER SCHOOL

□ 趣旨

（双葉郡中高連携の目的）交流を通じ生徒たちが主体性・協働性・創造性を発揮するとともに、町村や世代の垣根をこえて双葉郡のつながりを感じる

実施目標：

- ✓ お互い共感したり認め合ったりしてつながりを感じる
- ✓ 普段の学校生活の中ではできない学びを体験し主体的に参加し、わくわくする

□ 体制（中高生交流会実行委員会）

実行委員長：對馬俊晴 ふたば未来学園副校長

委員：町村（中学校）・高校・特別支援学校より1名以上（計11名）

会議日：6月4日、（※以下予定）7月5日、7月25日、9月17日（計4回）

□ 実施概要（予定）

日時：2024年8月1日（木）10:30～15:50

会場：福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校

対象：双葉郡内中学校・高校の生徒、双葉郡外の中学校・高校の生徒

内容：選択制参加型のワークショップ形含む活動。

(5) カリキュラム検討・教員研修

1. ふるさと創造学教員研修会

□ 実施概要

日時：2024年5月31日（金）13:30～16:30

会場：大熊町立学び舎ゆめの森

目的：8 町村が連携して進める「ふるさと創造学」の更なる充実、発展

内容：

- ① ふるさと創造学の創設と総合的な学習の時間の意義について
 - ◇ 大熊町立学び舎ゆめの森 南郷市兵校長
- ② 代表校 3 校による各校のふるさと創造学取組共有 (各 15 分)
 - ◇ 浪江町立なみえ創成小学校 横山浩志校長・和泉優衣先生
 - ◇ 大熊町立学び舎ゆめの森 柴田理臣先生
 - ◇ 福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校 對馬俊晴副校長
- ③ 講演
 - 「主体的・対話的で深い学びと探究」
 - 講師：田村学氏 (文部科学省初等中等教育局主任視学官)



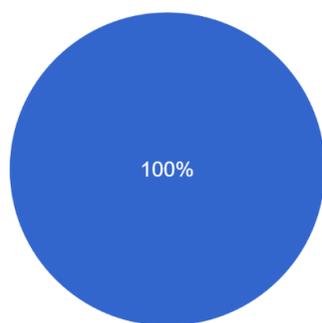
□ **参加者数 計 92 名** ※関係者含む

参加者内訳：双葉郡内 64 名 (教職員 57 名、教育委員会 7 名)

双葉郡外 28 名 (教職員 8 名、教育委員会等 12 名、その他関係者 8 名)

□ **振り返りアンケートより (抜粋)**

◇ 今後の指導や取り組みに活かせる内容でしたか。



- 活かせる内容だった
- 活かせる内容ではなかった
- どちらともいえない

◇ 代表校による取組紹介はいかがでしたか。

- ✓ 改めてふたば未来学園の実践は双葉郡内の良いロールモデルとなっている。というのも、しっかりとカリキュラムに組み込まれているからだ。他の 2 校の実践も今までの積み上げた実践の上に立っていて、その経験が活かされているものだった
- ✓ なみえ創成小学校、ふたば未来学園ともに、地域に関連したたくさんの体験活動を行っており、たくさん見習いたい部分があった。両学校からアイデアを借り

て、本校の体験活動に生かしていきたい。また、両校とも年間の見通しが立っており、計画的に探究活動を進めている部分は見習いたいと感じた。

- ✓ 「探究」の捉え方が今まで曖昧でしたが、どの学校もその定義がしっかりされていて、また、学校全体で計画的に取り組まれており、素晴らしいと思いました。特に子どもたちの「好き」「やりたい」気持ちを大切にされているのが伝わりました。

☆ 田村学氏によるご講演はいかがでしたか。

- ✓ 「深い」学びについて、図や事例を提示しながら説明してくださり、今まで曖昧だった「深い学び」のイメージが明確になりました。総合的な学習だけでなく、他の教科にもつながっていると感じました。
- ✓ 深い学びのために、知識の精緻化や体系化など、様々な方法があることをご講義いただき、大変勉強になった。また、探究活動における探究のプロセスについては、自分の教科（理科）とも通じる部分が多く、課題の設定と結果の整理分析のハードルが高い、というお話を聞いて大変納得した。教科学習と探究活動を行き来しながら、学習活動を展開していきたいと思った。
- ✓ 主体的・対話的で深い学びについて、深い学びにするためには、知識や技能をつなぐ事が大切であり、そのためには活用・発揮が重要になる事、さらに、生徒の探究は教師側が教師力、指導力を磨くチャンスである事など、改めて気づく事、学ぶ事がたくさんありました。
- ✓ 学校の教育目標と総合的な学習の時間とのつながり、また同じ目標に向かって地域で取り組むというふるさと創造学の特色等を再確認できた。
- ✓ 探究学習の重要性を改めて感じた。知識の構造か探究のプロセスの図がわかりやすかった。また課題の設定には、現状を知り問題を把握するとともに、教師の適切な関わりが必要であることを学んだ。今後は思考ツールなども工夫して使っていきたい。

☆ その他

- ✓ 双葉郡教育復興ビジョンとふるさと創造学サミット立ち上げ当初から現在までを振り返ってみると、着実に前進してきていると感じ取ることができた。節目の時を超えて、今後の進むべき方向についても再考していきたいと感じた。
- ✓ 双葉郡の学校再開、カリキュラムの充実においてふるさと創造学への取り組みが果たした役割はとて大きいと感じている。特に、ふるさと創造学を実践している教員自身が自分の所属校のある地域のよさを知ろうとし、そこで育つ子どもたちの未来を考えながらカリキュラムを考えるようになる。双葉郡で研修を積んだ教員が、他地区でどのようにその成果を生かしているのかを知りたい。双葉郡での経験を、域内外で生かす教員が増えているのであれば、ふるさと創造学や双葉郡教育復興ビジョンの取り組みに関する成果と言えるのではないかな。
- ✓ ふるさと創造学を経験した子どもたちが今現在どのようになっているのか、ふるさと創造学での学びを大人になってどう活かしているのか、かつてふるさと創造学を経験した子どもの講演会があると、教員の意識向上にも、ふるさと創造

学の成果や課題の発見にもつながるのではないかと思います。

2. 「ふるさと創造学 令和6年度・実践事例集」制作 (予定)

目的：双葉郡8町村が連携して行う「ふるさと創造学」の各校の取組の共有およびアーカイブ

内容：各校のふるさと創造学取組内容（テーマ、活動内容・手法、ねらい等を含む）

発行部数：900部（予定）

配布対象：郡内教職員、関係者、他町村教育委員会等

発行日：2025年3月（予定）

(6) ICT活用推進・広報誌編集制作

□ 目的

ICT活用：

離れている双葉郡の学校同士をつなげ、子供たちへの教育効果を高める

広報誌制作：

広報誌制作双葉郡内各校の取組や子供たちの姿・思いを、教員や子供の視点を大切に地域内外へ取組を発信することで、ふたばの絆をつくるとともに、表現・発信等のアクティブ・ラーニングにつなげる

□ 体制 (ICT活用・広報委員会)

委員長：南郷市兵 学び舎ゆめの森校長

委員：各小・中・高校1名（計17名）

□ 取組概要 (予定)

- ICT活用・広報委員会（開催日調整中）
 - 昨年度の振り返り、今年度の活動内容確認
 - 各校のICT活用状況等情報交換
- Zoom等を活用したふたば生徒会連合の活動のサポート
- 先進地域視察
- 広報誌の各校学校ページの内容検討、素材準備等

□ 広報誌「ふたばの教育 Vol.15」概要 (予定)

号	2025年春号 (vol.15)
発行	2025年2月発行 (予定)
内容	検討中
読者	双葉郡8町村の地域住民（各町村広報誌に同封し全戸へ発送）、各校保護者・双葉郡内教育関係者、一般等
発行部数	38,000部 (予定)

(7) ふたば生徒会連合

□ 目的

交流を通じ生徒たちが主体性・協働性・創造性を発揮するとともに、町村や世代の垣根をこえて双葉郡のつながりを感じられるようにする

□ 体制（ふたば生徒会連合担当委員会）

委員長：横田和典 葛尾中学校長

委員：各中・高校 1 名（計 10 名）

□ 取組概要

➤ 担当委員会（教職員）

5 月 21 日、（※以下予定）7 月 16 日、11 月 19 日、2 月（年 4 回）

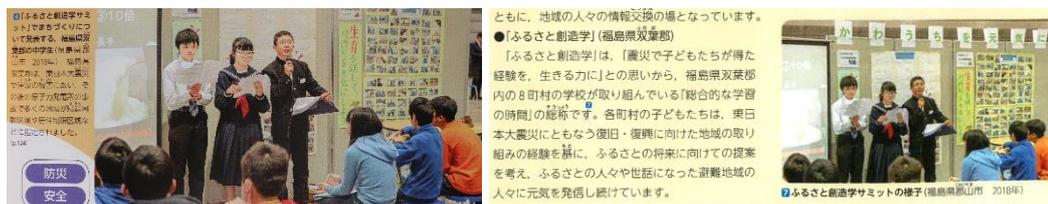
➤ 生徒活動（予定）

- ふたばミーティング（ビデオ会議）
（※以下予定）6 月 24 日、7 月 18 日、7 月 24 日（対面会議）、9 月、10 月、11 月、12 月、1 月、2 月（計 9 回実施予定）
- 中高生交流会 運営サポート
- ふるさと創造学サミット 運営サポート
- 広報誌「ふたばの教育 Vol. 15」生徒会連合ページ制作、校正協力

(8) その他

□ 東京書籍「新しい公民」・「新しい社会」の教科書掲載

「ふるさと創造学」については、東京書籍の「新しい公民」及び「新しい歴史」の教科書（中学生対象）に掲載されており、令和 7 年度発行版についても「新しい歴史」には継続して掲載されることになっている。



以上